９０周年記念　　２００６年６月１８日　関東最終日

あいにくの雨模様だったが、前年の千葉のような暑さよりはましかもしれない。前日の４００ｍＲでは、悲願の４００ｍＲ優勝。嵯峨根ＯＢ副会長以来、２７年ぶりの朗報であった。１００ｍも実力通り優勝。田中もインターハイへ。

１００ｍの関東制覇も４４年ぶりという歳月が流れている。現ＯＢ副会長の梶先輩以来だ。

男子400リレー　春日部 27年ぶりV

女子100は高橋（埼玉・栄）3連覇

切磋琢磨し「勝負の夏」

第１５回関東高校対抗選手権大会（１９６２年）

100　①　11.4　梶　博信

実は後藤以外、インターハイになって春高唯一の１００ｍ全国入賞の大木先輩（高１１）も関東では２位だった。関東を制するということの難しさを如実に示している。前回２年生ながら総体４位の後藤であっても、関東は２位。もちろん優勝は全国制覇した茨城の石塚選手。

今回は向かい風の中、記録もさほどでもなく、全国からのマークをそらすには好都合となった。本番で勝てばいいのだ。

注目を集めた２００mは予選を３人とも通過した。

１００mと違って２００mには準決勝がない。

しかし見事に全員通過して見せた。

特に昨年、予選で敗退している石川は見事にファイナリスト、および８位以内入賞の資格を勝ち取った。

大会最終日。みなすでに７本ほどのレースをこなしている。疲労はピーク。

そんな中、北関東のファイナルが始まる。

スタンドからは「すげぇ・・・春日部３人残っているよ」

埼玉が８人中５人を占める。だが春高のレーンは最悪だった。

後藤は雨の１レーン。石川は８レーン。田中が６レーンにとどまったが、これは予選のタイムによるものなので仕方ない・・・

結果は横一線。

０コンマ４秒の中に８人が流れ込む大接戦となった。

田中２位、後藤６位、石川７位。

創部９０年の我が陸上部にとっても、このレース写真は貴重な歴史の証明となる素晴らしいレースであった。

田中の表彰式。

おめでとう。

南関東の決勝。

当然、このメンバーは８月の大阪での直接のライバルとなる。

最近の短距離の勢力範囲は北海道、関東、東海の覇権争いが続いている。

このレースの１位、２位は２年生だが、この二人が大阪インターハイ決勝にまで駒を進める事となる。

次はいよいよ大阪決戦だ。

筆　撮　野本　順一